

2026年 秋・冬

竹久夢二美術館

企画展プレスリリース

描かれた理想郷

夢二の日本

あゝ、早く「昔」になれば好い
「夢二画集夏の巻」より

担当学芸員による
ギャラリートーク
10/17(土) 11/8(日)
12/5(土)
午後2時ヨリ

2026. 10.3 SAT >> 12.20 SUN



竹久夢二美術館
TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-2
TEL 03(5689)0462
<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

大 正ロマンを象徴する存在として知られ、「夢二式美人」で人気を集めた詩人・画家・竹久夢二(1884-1934)は、時代の移り変わりにともない、失われゆく日本情調を惜しみ、伝統美や自身の思いを表現し続けました。
本展では夢二が理想とする日本の風景や文化を多角的に紹介します。少年時代の記憶と郷愁、浮世絵の世界、芝居や古典文学を題材にした作品を展示し、夢二が思い描く理想郷に迫ります。

休館日
月曜日(ただし10・12・11・23(月・祝)開館)
翌10・13・11・24(火)休館

開館時間
午前10時～午後5時 最終入館午後4時30分

入館料
一般1200円／大・高生1000円／中・小生500円
＊弥生美術館と2館併せてご覧いただけます。

1. 雪の夜の伝説 1926年 2. 加茂の露台・奈良の白壁 大正初期 3. 『源氏物語橋姫』 1918年 4. 春 1918年



竹久夢二美術館
TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

① 展覧会チラシ

展示コーナーと広報図版紹介

広報図版をご使用希望の場合は、「画像使用申込書」に必要事項を記載の上、FAX またはメールで当館にお送りください。

出品点数 約200点（予定）

＊ 心象風景に見る故郷 ＊

1884(明治17)年、岡山県に生まれた夢二は、中学入学まで郷里で過ごした。

15歳の冬、一家で北九州に転居したため、ふるさとの思い出は心象風景となって作品に投影された。

のどかな風景の中に遊ぶ子供や、優しい母の姿が表現され、幼い夢二に強い印象を残した旅人も繰り返し描かれた。

安らぐことのできた場所で、過ぎ去った時を愛おしむ夢二のまなざしが、それぞれの作品から感じられる。



②春 1918年

＊ 夢二の日本 ノスタルジア&夢二式美人 ＊

表現のキーワードとなる「ノスタルジア」と「夢二式美人」に着目・本コーナーでは肉筆作品から、夢二が思い描く日本のイメージを探る。

ノスタルジア

日本を象徴する富士山に夢二は思い入れがあり、子供のための劇の背景にも富士山を彷彿とさせる山を出現させた。

生涯童心を持ち、制作を続けた夢二は、童話劇「春」が1923(大正12)年に初演された際、子供が想像した世界を意図して、自ら布でセットを設えた。



③童話劇「春」舞台面 大正後期

夢二式美人

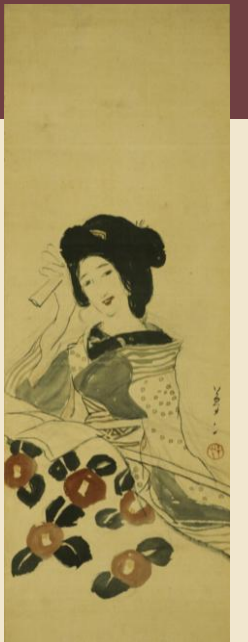
夢二が実生活から得た印象と、自らの理想を合わせて生まれた女性像「夢二式美人」は、明治末から大正にかけて大ブームを巻き起こした。

しぐさや表情、着物からのぞく肌などの、日本女性がもつ美を、夢二は独創的な女性像の特徴に取り入れた。

夢二に愛情を注いでくれた母や姉にまつわる記憶は、理想の女性像に影響を与え、さらに妻や恋人をモデルに美人画を制作することもあった。



④ある思出 制作時期不詳



⑤炬燵 明治末～大正初期

＊ 木版画制作と浮世絵の伝統 ＊

個性的な美人画や役者絵を表した夢二は、浮世絵師の喜多川歌麿にも例えられ、木版による表現に力を注いだ。

夢二は、江戸期の浮世絵木版画に関心を寄せて研究し、伝統を踏まえて刷師や摺師と協働で制作を行った。

書籍や雑誌の仕事においても、夢二は木版や印刷技術を追求し、完成度の高い作品を発表、好評を博した。



⑥雪の夜の伝説 1926年

＊ 芝居絵の世界、古典文学からの着想 ＊

芸事を好む家庭に育ち、歌舞伎や文楽(人形浄瑠璃)を好んだ夢二は、古き良き日本の姿を芝居の世界に見出した。

とりわけ世話物と呼ばれる義理や情愛、事件などを扱う芝居に共感を覚え、夢二はその一幕や登場人物を作品に表した。

また、古代から近世にかけての歌集や物語にも夢二は親しみ、先人の優雅で感情豊かな表現から刺激を受けた。



⑦小春 1916年



⑧『源氏物語情話』 1918年

＊ 伝承歌と詩作 ＊

夢二は三味線を爪弾きながら歌う小唄や、全国に伝わるわらべ歌などの伝承歌を収集し紹介した。

著作『春の鳥』には恋の場面を中心とした小唄を集め、表紙は浮世絵風、本文には唄に合わせて夢二式美人の口絵を挿入した。

また、夢二は子供時代に聞いたわらべ歌や子守唄の記憶をもとに、明治末期より子供目線で制作した詩やイラストレーションを発表した。



⑨『春の鳥』 1917年

みどころ



1. 夢二が憧れた古き良き日本をたずね、和の作品世界や日本文化の魅力を再発見
2. 肉筆作品を多く盛り込んだラインナップで、作品の背景や夢二の内面に迫る展覧会

＊ 東京の残したい風景 ＊

1901(明治34)年に上京し、夢二は東京を主な拠点として活動した。

夢二は昔ながらの風情を残す下町に通ってスケッチを盛んに行い、近代化によって失われゆく趣を惜しんだ。

また、1923(大正12)年に発生した関東大震災が転機となり、東京の街は変貌したが、夢二は以前の東京を故郷のように懐かしく感じて、作品を通して思いを寄せた。



⑩大根河岸 1908年

＊ 古都の思い出 ＊

京都に約2年暮らした夢二が体験した、伝統や自然の美を制作に繋げた。

大正期には京都府立図書館で2度の個展を開催、最愛の恋人と同棲も経験し、夢二は京都で画業と暮らしの両面において充実した時間を過ごした。

夢二は伝統の美と独創性を調和させ、京名所や舞妓姿を多くの分野の作品に表現した。



⑪加茂の露台・奈良の白壁 大正初期

展覧会概要

展覧会名称

夢二の日本 描かれた理想郷

主催及び会場

竹久夢二美術館

住 所

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2

Tel

03-5689-0462

会 期

2026(令和8)年10月3日④～12月20日⑩

休館日

月曜日(ただし10月12日、11月23日開館、
翌10月13日、11月24日(火)休館)

開館時間

午前10時～午後5時
(入館は午後4時30分までにお願いします)

入館料

一 般 1200円 大・高生 1000円
中・小生 500円

※弥生美術館と2館併せてご覧頂けます。

交 通

東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩7分
JR上野駅 公園口より徒歩20分



ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

担当学芸員による
ギャラリートーク
開催

10/17(土) 11/8(日) 12/5(土)

いずれも午後2時より

竹久 夢二

明治17年～昭和9年
(1884-1934)



岡山県出身の詩人画家。新聞、雑誌への投稿から1905(明治38)年末に挿絵画家としてデビューし、センチメンタルな夢二式美人画で人気を博した。画壇に属さず、日本画、水彩、木版画などで日本の郷愁と西欧のモダニズムを自在に表現し、詩や童謡などの文芸分野でも活躍した。生涯に数多の恋愛と旅を経験し、創作に反映したが、結核のため1934(昭和9)年没。

竹久夢二美術館

当館では約3300点の所蔵作品より、年4回様々なテーマで企画展示を実施しています。

1990(平成2)年開館。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の美術館です。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在したへ菊富士ホテル〜がかつてあり、また最愛の女性、笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所で、今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。



併設 夢二カフェ港や ★ 展覧会スペシャルメニュー★

黒ごま夜曲
(セレナーデ)



夢二による墨画をイメージした、和洋折衷のバスクチーズケーキです。黒胡麻の香ばしく、濃厚な風味をお楽しみください。

680円(税込)

★ 展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 徳重美佳 までお願いいたします。

tel 03-5689-0462

fax 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 徳重 行

夢二の日本 描かれた理想郷

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）										
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリース掲載の番号のある図版について、メールで画像データをお送りいたします。
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 徳重宛